

科目名		担当者氏名	授業形式	単位	開講時期
臨床栄養学特論Ⅰ		大松 孝樹	講義	2	前期
必修・選択	修了要件	必修			
	資格要件				
学習目標	<p>栄養素の過剰摂取や欠乏、栄養素の代謝異常および食生活の偏重、さらにストレスや運動不足などが、生活習慣病の誘因となっている。これに対応し適切な食事療法を行うことにより、疾病の治療および合併症を予防することができる。この教科では各疾患の発生機序、病態生理、臨床症状、臨床検査などをふまえ、適切な栄養指導ができるように、各疾患の食事療法について栄養学視点から学ぶ。</p>				
授 業 計 画					
回	項 目	授 業 内 容			
1	栄養法（1）	経口栄養・経管栄養・経腸栄養剤の組成			
2	栄養法（2）	経静脈栄養法			
3	消化器疾患（1）	胃・十二指腸潰瘍と食事療法			
4	消化器疾患（2）	腸疾患と食事療法			
5	消化器疾患（3）	膵疾患と食事療法			
6	消化器疾患（4）	胆嚢疾患と食事療法			
7	消化器疾患（5）	急性肝炎と食事療法			
8	消化器疾患（6）	肝硬変と食事療法			
9	代謝性疾患（1）	肥満の判定と成因			
10	代謝性疾患（2）	肥満と代謝およびその障害と合併症			
11	代謝性疾患（3）	肥満の治療（食事療法・運動療法）			
12	代謝性疾患（4）	糖尿病の原因と分類			
13	代謝性疾患（5）	糖質代謝			
14	代謝性疾患（6）	糖尿病の診断と症状・二次障害			
15	代謝性疾患（7）	糖尿病の治療（食事療法・運動療法・薬物療法）			
参 考 書	<p>奈良信雄著 「人体の構造・機能と疾病の成り立ち」 医歯薬出版 2003 林正健二編 「人体の構造と機能—解剖生理学」 メディカ出版 2005</p>				
学習上の注意（自己学習、学外学習など）	臨床栄養学の関連科目である解剖生理学・栄養学特論で習ったことを理解しておくこと。				
評価の方法と時期	毎授業時間の小テスト（30%）と定期試験（70%）により評価する。				